

研究開発説明会

オンコセラピー・サイエンス株式会社

2023年6月27日

OTS事業について

オンコセラピー・サイエンス株式会社

2023年6月27日

「がん」との闘い

がん患者さんの数

※新たに診断されたがん罹患の数

2020年	罹患数※	死亡数
国内	約108万人	約39万人
世界	約1,930万人	約1,000万人

出典：GLOBOCAN 2020, Sung et al., CA Cancer J Clin.
 国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

がん治療の課題

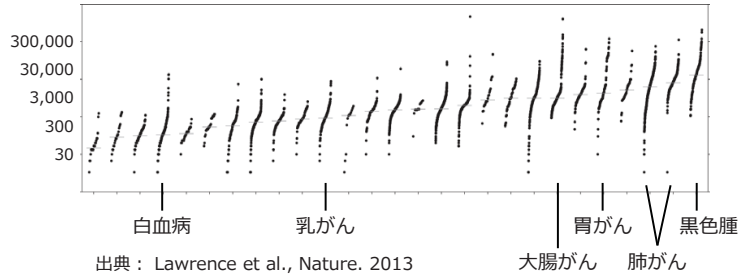
副作用の頻度が高い
 進行・再発性のがんは治療が困難
 希少がんには有効な治療法がほとんどない

新たな治療薬の開発が必要

がんと遺伝子

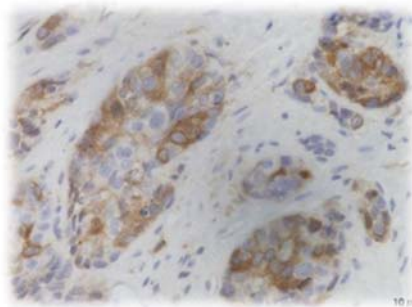
がんはさまざまな原因によって起きる
遺伝子異常によって生ずる病気である

各がんにおける**遺伝子変異数**



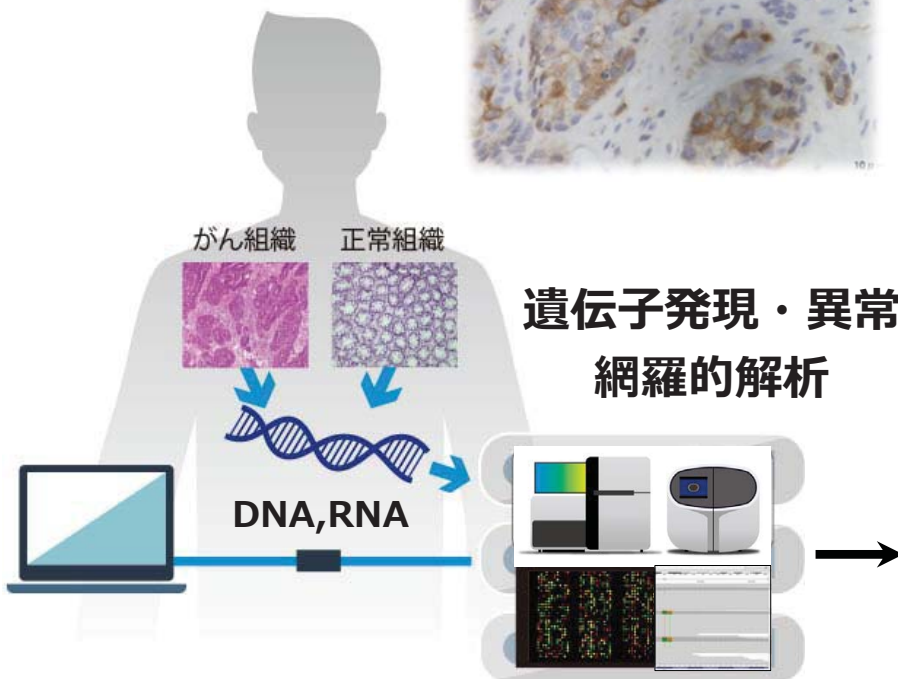
全ゲノム（遺伝子）解析により
 がん細胞に有効な分子標的を同定し
 治療効果が高く副作用が少ない
新規分子標的治療薬の開発が可能

がん特異的分子を標的とする抗がん剤開発



乳がん組織
当社分子標的発見の例

がん細胞に選択的に作用する
抗がん剤の開発を実施



がん細胞に特異的に
 発現し、がん細胞の
 生存や増殖に必須
 である遺伝子を特定

医薬品の研究開発

独自の新規抗がん剤標的タンパク質の同定
新規分子標的治療法の開発

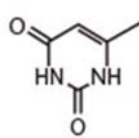
- ・大学・研究機関との提携、共同研究
- ・科学的エビデンスを論文・学会発表
- ・特許出願



がんペプチド
ワクチン



抗体医薬



低分子医薬



臨床試験

<p>患者さん自身の免疫系に働きかけ、がん細胞を攻撃する能力を誘導する</p>	<p>標的タンパク質に結合して、他のタンパク質との相互作用を阻害したり、標的発現細胞を傷害したりする</p>	<p>標的タンパク質に結合して、酵素としての働きを弱めたり、他の分子との相互作用を阻害したりする</p>
--	---	---

安全性、有効性確認

Phase 1 : 安全性を確認

Phase 2 : 少数の患者で有効性を確認

Phase 3 : 多数の患者で有効性を確認（既存薬と比較）

開発パイプライン（2023.6現在）

治験薬	種類/ 作用機序	対象疾患	開発ステージ				開発国/ 地域	導出先 etc.
			非臨床	Ph1	Ph2	Ph3		
S-588410	がんワクチン	食道がん				P3終了	日本	塩野義製薬株式会社
S-588410	がんワクチン	膀胱がん			P2終了		日本/欧州	塩野義製薬株式会社
S-488210	がんワクチン	頭頸部がん		P1終了			欧州	塩野義製薬株式会社
S-588210	がんワクチン	固形がん					英国	塩野義製薬株式会社
OTSGC-A24	がんワクチン	胃がん					シンガポール/韓国	医師主導治験
OTSA101	FZD10抗体 (⁹⁰ Y標識)	滑膜肉腫					日本	
抗アミロイドβ ペプチド抗体	Aβ抗体	アルツハイマー型 認知症		P1終了 (欧州/日本)			—	
OTS167	低分子 MELK阻害剤	白血病		登録終了			米国	
OTS167	低分子 MELK阻害剤	乳がん					米国/日本	
OTS964等	低分子 TOPK阻害剤	—					—	

注：創薬研究領域では、複数のがん特異的蛋白質を標的とする低分子化合物の新規化合物合成と構造活性相関研究を進行中。また、自社化合物ライブラリを活用した複数の低分子化合物候補品を評価中。

がんペプチドワクチン

がん免疫療法開発の様々なノウハウ

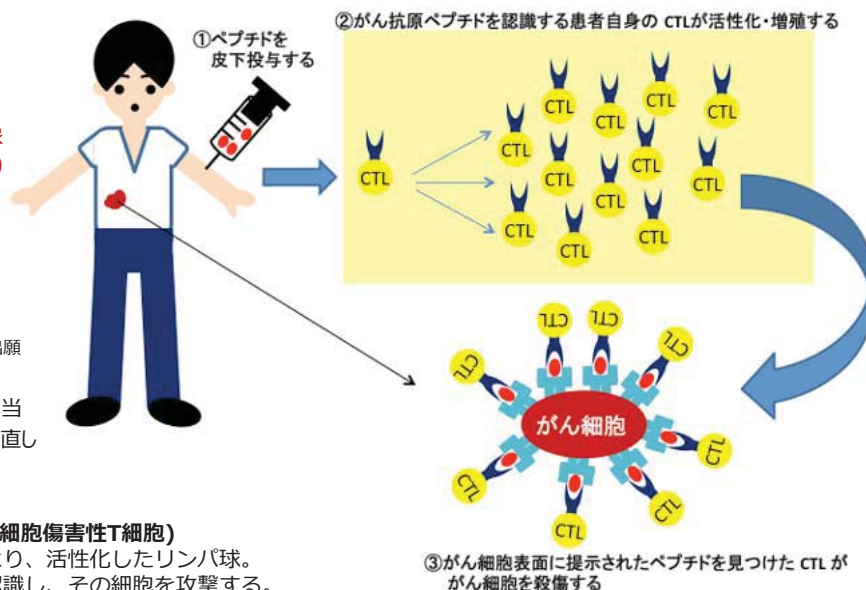
がんペプチド ワクチン

2万個以上の遺伝子から、計43遺伝子を対象としたタンパク質断片(エピトープペプチド)を既に同定

※ 特許出願件数で、OTSは「がん免疫療法」全体で世界20位「がんワクチン療法」分野で世界3位

出典：AnswersNews（2019.6.20）、2018年度の特許出願技術動向調査報告書

※ 2022年度、知的財産権の戦略的評価を実施し、当社グループの事業には影響がない範囲で、出願国の見直しなど実施。



CTL (Cytotoxic T lymphocyte、細胞傷害性T細胞)
投与されたがん特異的ペプチドにより、活性化したリンパ球。TCRを介してがん抗原ペプチドを認識し、その細胞を攻撃する。

TCR (T cell receptor、T細胞受容体)
CTLが、がん抗原ペプチドを認識する際に使用する受容体。

HLA分子
断片化されたがん抗原ペプチドを細胞の表面に差し出す役割を持つ。差し出されたペプチドを認識したCTLは、その細胞への攻撃を開始する。

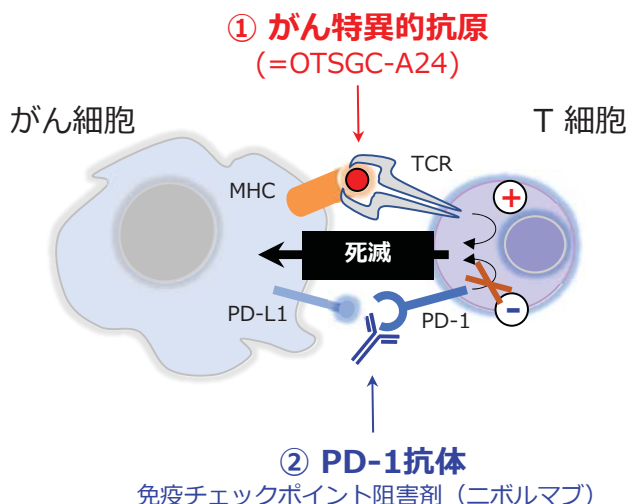
がん抗原ペプチド
HLA分子によってがん細胞の表面に差し出された、がんの目印となるペプチド。

OTSGC-A24

OTSGC-A24 胃がん第I相臨床試験

※臨床試験登録情報 (ClinicalTrials.gov ID : NCT03784040)

- 目的：転移性胃がんを対象とし、複数の胃がん特異的オンコアンチゲン由来のペプチドを用いたがんペプチドワクチン (OTSGC-A24) と、免疫チェックポイント阻害剤 (ニボルマブ) の併用療法における安全性と有効性を評価する。
- 医師主導治験として、2019年よりシンガポールと韓国で実施中。当社は治験薬提供者として参加。



併用療法の作用機序

①がんペプチドワクチン投与により、活性化したT細胞 (Tリンパ球) が同様のがん特異的抗原を提示しているがん細胞を認識し、その細胞を攻撃する。

②免疫チェックポイント阻害剤であるPD-1抗体は、T細胞の抑制性受容体 (PD-1) に結合し、抑制性シグナル伝達を遮断することによって、免疫系のブレーキを解除し、T細胞の細胞傷害能を高める。

胃がんとOTSGC-A24について

➤ 胃がんについて

- 国内新規患者数は年間13万人であり、部位別死亡数は全体で第3位。
- 内視鏡検査による早期発見も可能だが、進行、再発、転移性の胃がんは確立されている薬物療法が少なく、効果が認められても短期間で再発する。

出典：がんの統計2021、公益財団法人がん研究振興財団
日本胃癌学会胃癌治療ガイドライン2018

- OTSGC-A24は複数の胃がん特異的オンコアンチゲン由来のペプチドを用いたがんペプチドカクテルワクチン。ゲノム包括的解析などにより見出された、胃がんの特異的な腫瘍抗原を標的とするものであり、個々のペプチドワクチンはがん細胞を殺傷するリンパ球を強力に誘導することが期待されている。

➤ 併用療法へのメリット

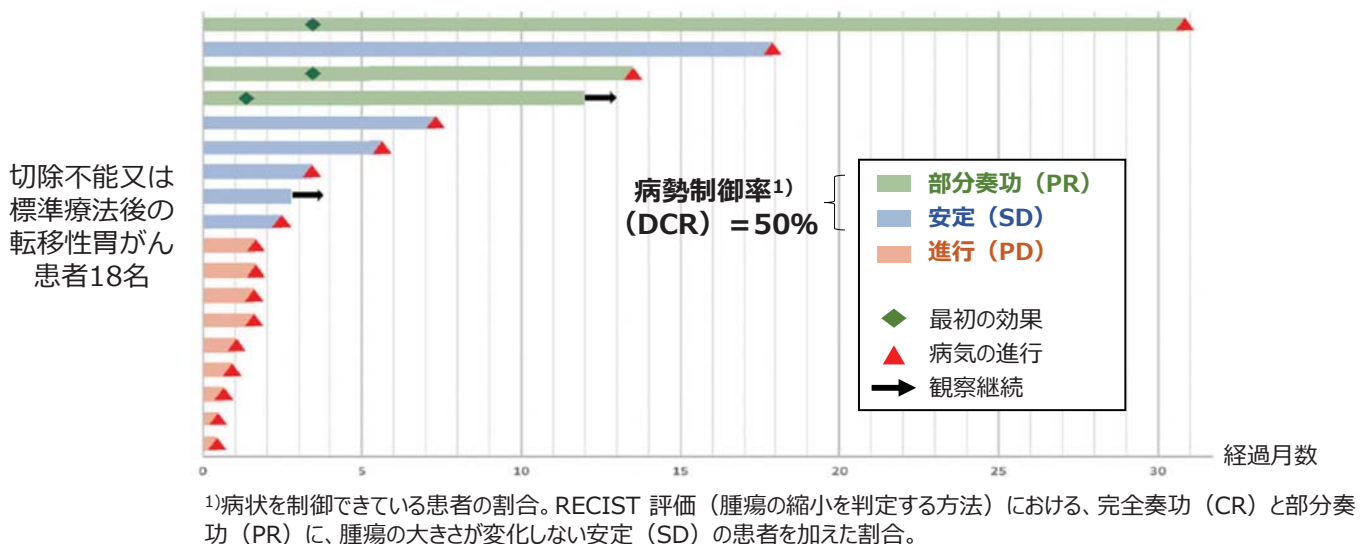
標準治療で効果がない胃がん患者さんの3次治療として使用される免疫チェックポイント阻害剤（PD-1抗体など）との併用で、**相乗的な効果を期待できる**。

➤ 高い安全性

ペプチドは低分子阻害剤や抗体など他の薬剤に比べて、**副作用が少ない**ことから長期間治療可能である。

OTSGC-A24、第 I 相臨床試験の中間結果

出典：Joan Choo et al., ESMO conference presentation #1255P (2022/09/13)



- 有効性に関する部分奏功（PR）は3例（16.7%）、安定（SD）は6例（33.3%）であり、無増悪生存期間（PFS）の中央値は1.64ヶ月、全生存期間（OS）の中央値は5.98ヶ月。
- 特に、SDもしくはPRを示した患者におけるPFS中央値は13.5ヶ月、OS中央値は18.6ヶ月であった。
- 安全性に対する大きな懸念は認められなかった。

参考：標準治療で効果がない胃がん患者さんでのPh3試験結果（出典：Kang et al., *Lancet*. 2017）

PD-1抗体治療群 vs 対照群：CR+PR (11.2% vs 0%), PFS (1.61ヶ月 vs 1.45ヶ月), OS (5.26ヶ月 vs 4.14ヶ月)

OTS167

MELK阻害剤 OTS167

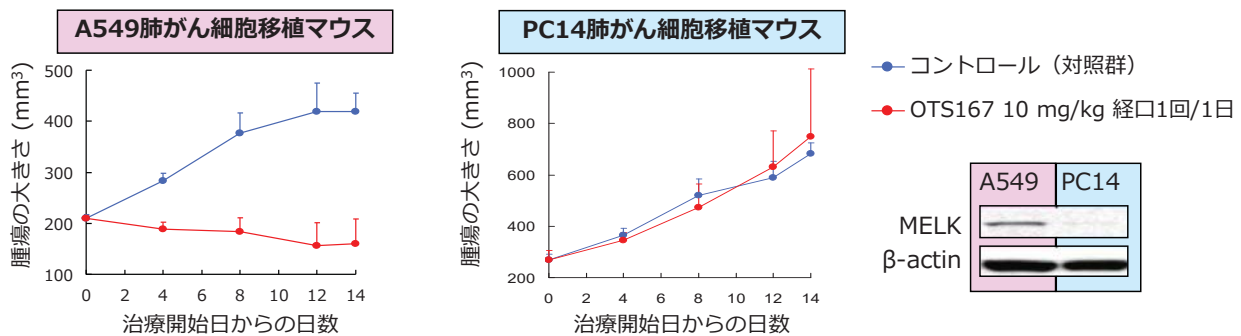
- MELK (Maternal Embryonic Leucine Zipper Kinase) は、多くのがんで高頻度の高発現している。
- 精巣以外の正常組織では低発現している。
- がん細胞及びがん幹細胞の増殖・生存に重要である。
- MELK阻害剤OTS167は、ヒトがん細胞移植モデル (マウス) でMELK特異的かつ強い抗腫瘍効果を認めている。

MELKに対して高い阻害活性

OTS167 IC₅₀ = 1.1 nM

*IC₅₀; 半数阻害濃度。低い値を示す程阻害剤としての効果が高いとされる。

MELK特異的な抗腫瘍効果



出典: Chung et al., *Oncotarget*. 2016、OTS社内資料

OTS167 第 I 相臨床試験

OTS167 乳がんに対する第 I 相臨床試験

(2017年5月～、Clinical Trials登録ID: NCT02926690)

- 経口投与での安全性・忍容性確認が主目的
- カプセル剤 (経口) として、より早く治験結果が得られるように進めていく

ステージ	第 I 相
対象疾患	治療不応・再発乳がん (トリプルネガティブ乳がん ^(※) 含む)
投与経路	経口 (カプセル)
治験実施施設	アメリカ: MDアンダーソンがんセンター、ノーウォーク・ホスピタル、 メモリアルスローンケタリングがんセンター 日本国内の治験実施施設を追加

(※) トリプルネガティブ乳がん: エストロゲン受容体・プロゲステロン受容体・HER2の3つが発現していない乳がんのこと。乳がんの約15~20%に相当する。

全世界の新規乳がん患者: 約226万人 (2020年)、女性のがんでは1位 (最多割合) として、全がん死亡の1/6に該当

治療法: 外科療法、放射線療法、薬物療法 (化学療法、ホルモン療法など)

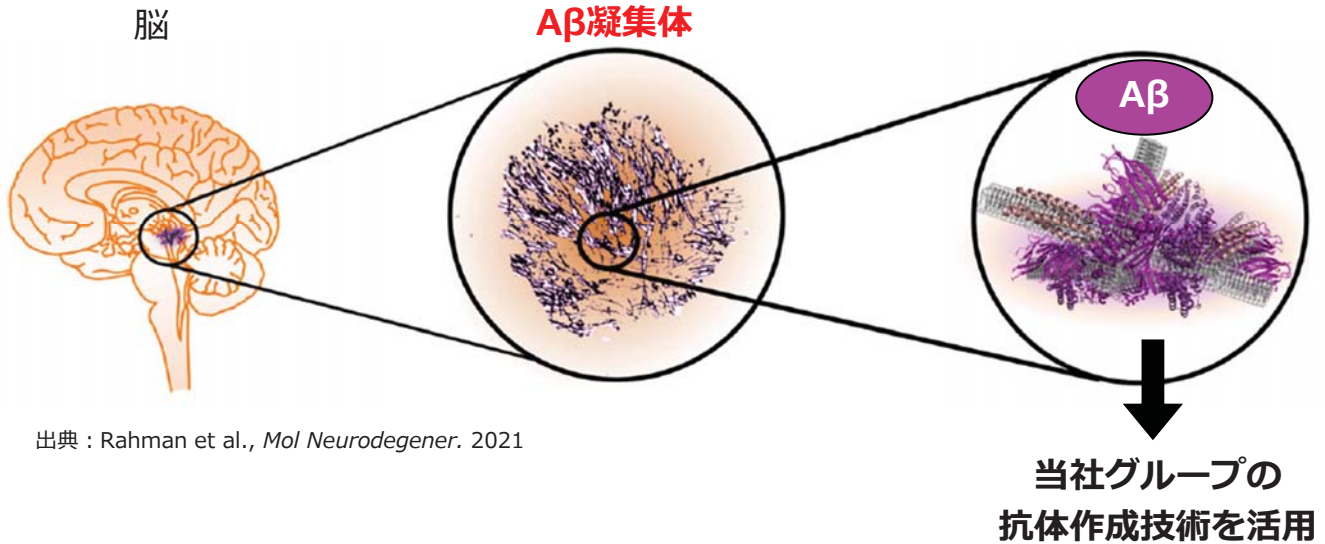
出典: GLOBOCAN 2020, Sung et al., *CA Cancer J Clin*. 日本乳癌学会 乳癌診療ガイドライン

OTS167の急性骨髄性白血病に対する第I/II相臨床試験は、5日連続静脈内投与後の安全性・忍容性について、一定の用量までの安全性が確認され、患者登録を終了しました。

アルツハイマー型認知症

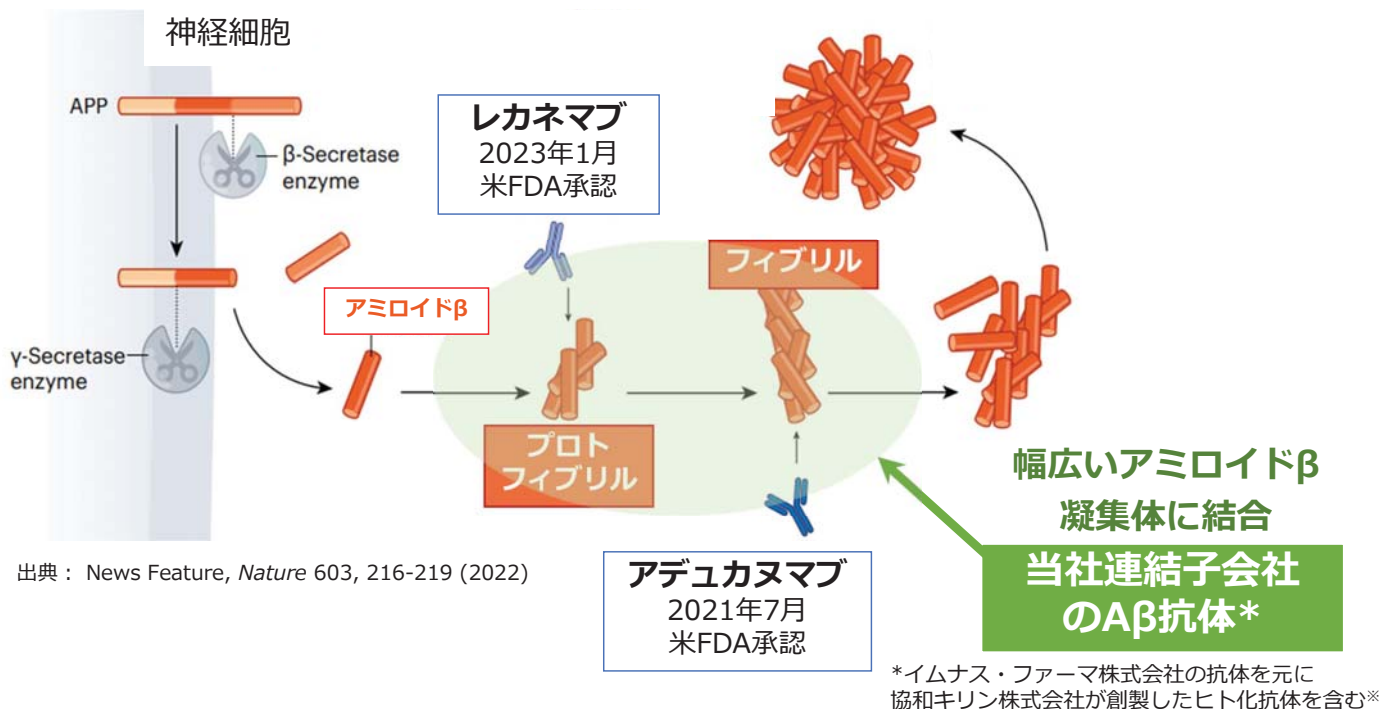
- アルツハイマー型認知症 (Alzheimer's Disease) は65歳以上の人では最も多い認知症であり、国内では2025年の総患者数は約675万人と予測され、高齢化に伴い大きく増加する。
- アミロイドβ (Aβ)** と呼ばれる異常なたんぱく質や、タウというタンパク質が凝集する事で、**脳の神経細胞が徐々に破壊される進行性の病気**である。

出典：日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究報告書 (<https://mhlw-grants.niph.go.jp/project/23685>)
日本神経学会 (<https://www.neurology-jp.org>)



出典：Rahman et al., *Mol Neurodegener.* 2021

アミロイドβの蓄積、それに対する抗体



出典：News Feature, *Nature* 603, 216-219 (2022)

アデュカヌマブ
2021年7月
米FDA承認

レカネマブ
2023年1月
米FDA承認

幅広いアミロイドβ
凝集体に結合
当社連結子会社
のAβ抗体*

イムナス・ファーマ株式会社の抗体を元に協和キリン株式会社が創製したヒト化抗体を含む

当社連結子会社Aβ抗体の特徴

- ・ 毒性の高いアミロイドβ凝集体への高い選択性を有しており、そのアミロイドβ凝集体を中和することによりアルツハイマー型認知症の病状の進行を抑制する。
- ・ 国内及び欧州での第 I 相臨床試験にて安全性が確認された※)。

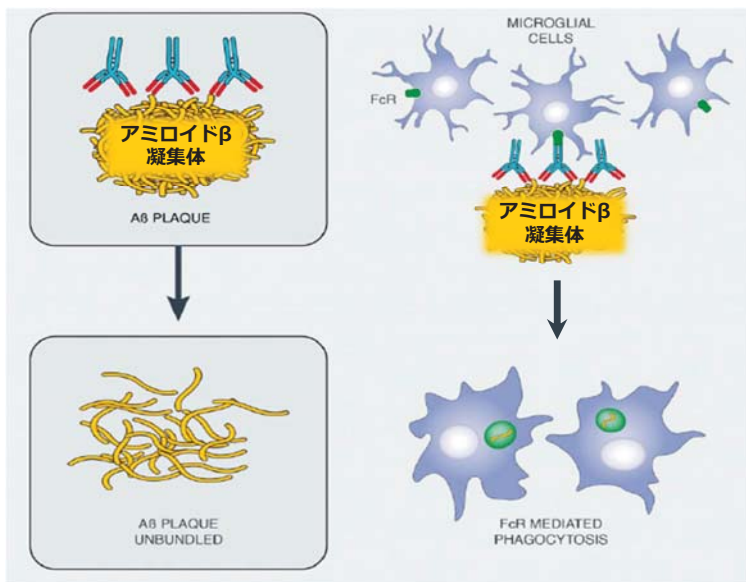
※) 協和キリンが実施 (ClinicalTrials.gov ID : NCT02127476, NCT02377713, NCT03093519)

作用機序の差異

当社連結子会社 のAβ抗体

- ✓ 抗体の中和活性により、アミロイドβ凝集体の形成を抑える。
- ✓ アミロイド関連画像異常 (ARIA) 副作用のリスクが低く、安全な長期間の治療が期待される。

今後、ライセンスアウト活動を進め、アルツハイマー型認知症の治療薬を提供することを旨す。



他社のAβ抗体 アデュカヌマブ、 レカネマブなど

アミロイドβ凝集体に結合した抗体を免疫細胞が認識し貪食する作用。

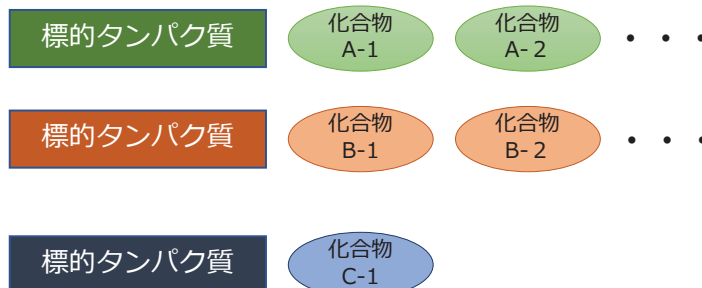
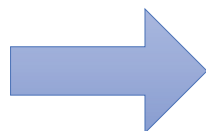
出典 : Panza et al., *Ann Neurol.* 2019;85:303-315.

当社独自化合物ライブラリの活用

- 創薬研究により蓄積された独自の化合物ライブラリおよび付随データを保有。
- がんに限らず、様々な疾患の治療標的となり得るタンパク質に対して強い阻害活性を示す化合物が複数存在。
- その用途について、引き続き情報収集を行うと共に、ライブラリの価値を利用した活用方法 (共同研究等) を検討する。

独自化合物ライブラリを、新たな創薬標的プロジェクトのために活用する

独自化合物ライブラリ



開発候補品探索



⇒臓器線維症の治療標的 (リン酸化酵素) 阻害剤

2022/10/31 新規化合物に関する研究着手のお知らせ
https://www.oncotherapy.co.jp/wp-content/uploads/2022/10/221031_01.pdf

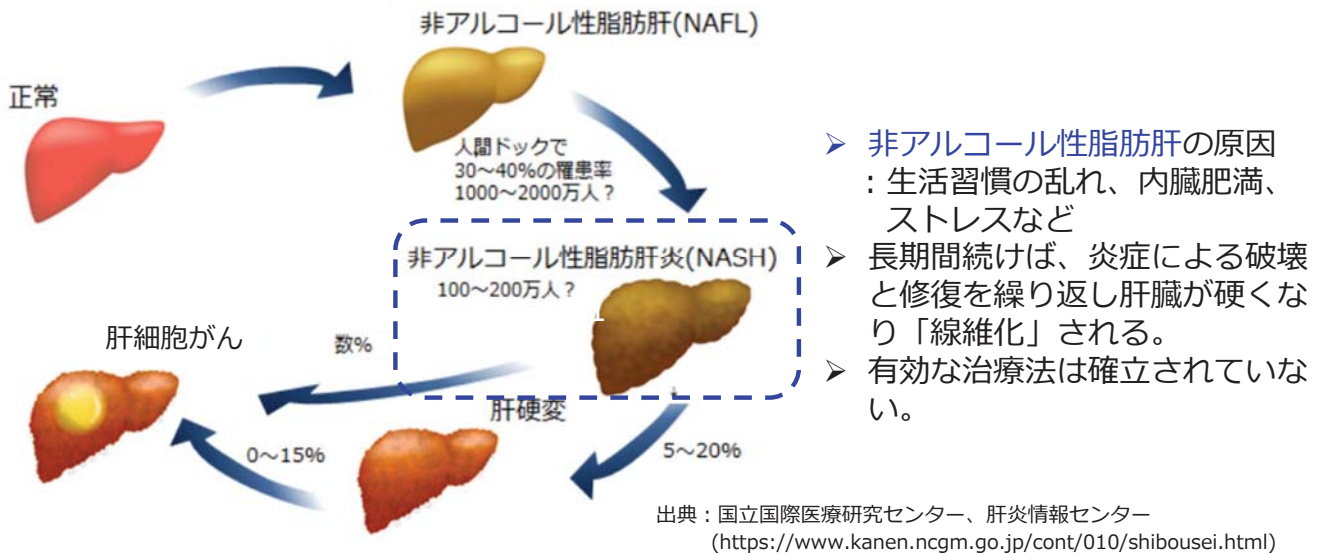
⇒FLT3 (FMS-like tyrosine kinase 3) 阻害剤

2022/4/11 FLT3阻害剤に関する研究結果の学会発表のお知らせ
https://www.oncotherapy.co.jp/wp-content/uploads/2022/04/220411_01.pdf

臓器線維症について

- ・ 損傷を受けた臓器の修復過程において、コラーゲンなど細胞間物質のタンパク質が過剰に沈着することにより線維化が進み、機能不全をきたす病態。
- ・ **さまざまな臓器（肺、肝臓、腎臓など）に発症し、臓器が線維化するとそこに「がん」が発生することが多く、臓器線維症は前がん病変として捉えられる。**
- ・ 疾患例：特発性肺線維症（IPF）、肝硬変、慢性肝炎（非アルコール性脂肪肝炎（NASH）、アルコール性肝炎、ウイルス性肝炎）、腎線維症 など。

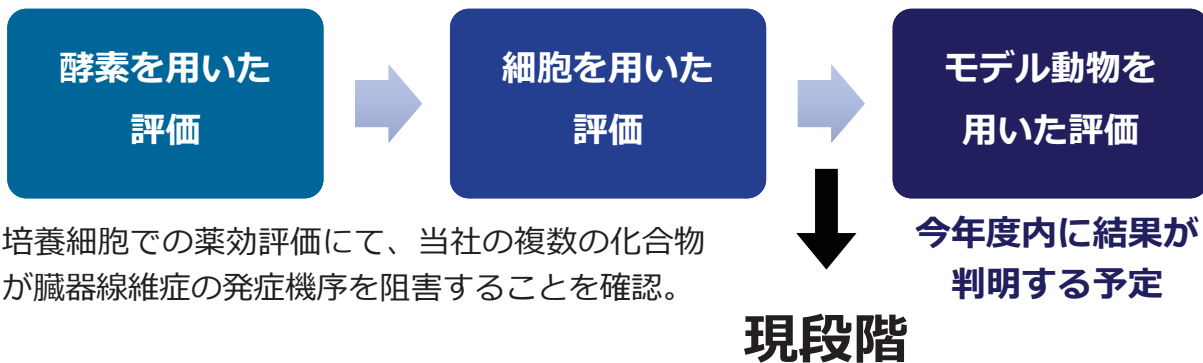
メディカルニーズが高い臓器線維症の例：非アルコール性脂肪肝炎（NASH）



- 非アルコール性脂肪肝炎の原因：生活習慣の乱れ、内臓肥満、ストレスなど
- 長期間続けば、炎症による破壊と修復を繰り返し肝臓が硬くなり「線維化」される。
- 有効な治療法は確立されていない。

臓器線維症の発症機序を阻害する有望化合物

創薬研究における有望化合物の選定プロセス




- ・ 培養細胞を用いた薬効評価にて、当社の複数の化合物が臓器線維症の発症機序を阻害することを確認した。
- ・ 今後は、動物試験での薬効確認後、非臨床・臨床試験に向け、さらに化合物を選定する必要がある。
- ・ ただ、当社は臓器線維症については開発ノウハウを持たないため、単独開発ではなくライセンスアウトを目指す。

CPM事業紹介

がんプレジジョン医療の時代へ

— 個々の患者さんに最適な医療を —

 Cancer Precision Medicine

Cancer Precision Medicine (がん・プレジジョン・メディスン; CPM)



ラボ内の様子



神奈川県川崎市川崎区殿町：殿町国際戦略拠点キングスカイフロント内



殿町国際戦略拠点 キングスカイフロントとは (ウェブサイト: <https://www.king-skyfront.jp/>)
世界最高水準の研究開発から新産業を創出するオープンイノベーション拠点です。
健康・医療・福祉・環境といった課題の解決に貢献するとともに、
この分野でのグローバルビジネスを生み出すことで、日本の成長戦略の一翼を担います。
政府より国家戦略特区・国際戦略総合特区・特定都市再生緊急整備地域に指定されています。

沿革



- 2017. 7 株式会社Cancer Precision Medicine (CPM) 設立
 - ✓ オンコセラピー・サイエンス株式会社とTheragen Etex Co., Ltd. (現Theragen Bio Co., Ltd.) の合併会社
- 2017. 11 オンコセラピー・サイエンス株式会社 腫瘍免疫解析部を会社分割 (簡易分割) により吸収合併
 - ✓ OTSのペプチドワクチン基礎/臨床研究部門をCPMへ移管、次世代シーケンスプラットフォームの整備
- 2018. 2 CPM臨床ラボを衛生検査所登録 (川崎市指令健医第288号 衛生検査所登録第293号)
 - ✓ 医療機関・研究機関より検査・解析受託開始
- 2022. 3 CPM有明サテライトラボを開設、衛生検査所として登録 (3江健生医第708号)
 - ✓ 公益財団法人 がん研究会 がん研究所 サテライトラボ内
 - ✓ ライブラリー自動分注機の導入、次世代シーケンサーおよび大容量サーバーの増設

衛生検査所とは

衛生検査所とは、人体から排出または採取された検体を用いて、診療のための各種検査 (※) を行う施設のことで。
(「衛生検査所指導要領」より引用・改変)

※微生物学的検査、免疫学的検査、血液学的検査、病理学的検査、生化学的検査、尿・糞便等一般検査および遺伝子関連検査・染色体検査
下線部：CPMで実施している検査

病気の診断や治療方針を決めるための検査や健康診断のために、血液やがんの組織等の検体を医療機関から集めて検査を行う場合には、「臨床検査技師等に関する法律」(昭和33年法律第76号)に基づき、その所在地の都道府県知事に衛生検査所として届け出る(登録する)必要があります。

厚生労働省の定める「衛生検査所指導要領」に、信頼に足る精度の検査結果を医療機関等に保証するため、衛生検査所が行うべき要件が定められています。

求められる要件として、指導監督医および精度管理責任者の設置や、日々の作業を記録する作業日誌・検体の受け入れ等を管理する台帳などの書類の運用、検査精度を維持・向上させるための管理等があり、定期的に行政機関による遵守状況等の調査が実施されます。

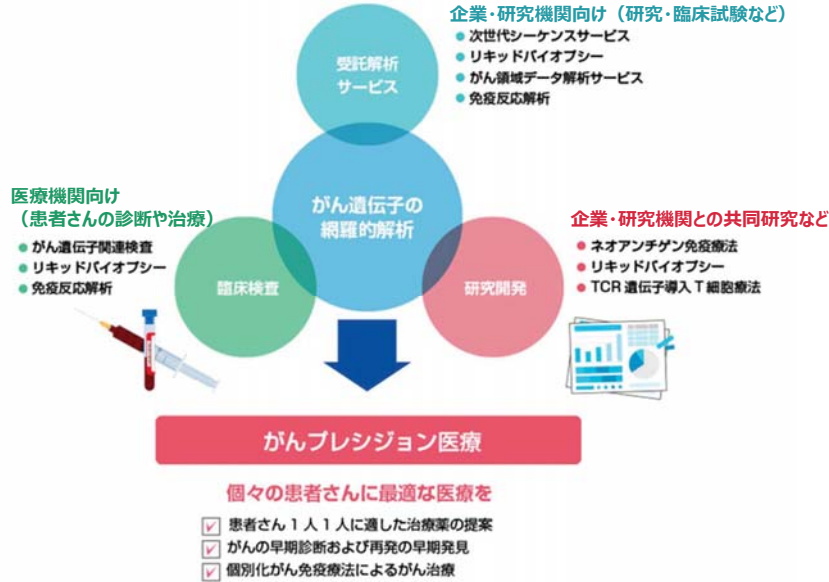
衛生検査所では、これら日常業務の遂行に関わるすべての業務を管理することにより、検査の精度および質を確保しています。



事業概要

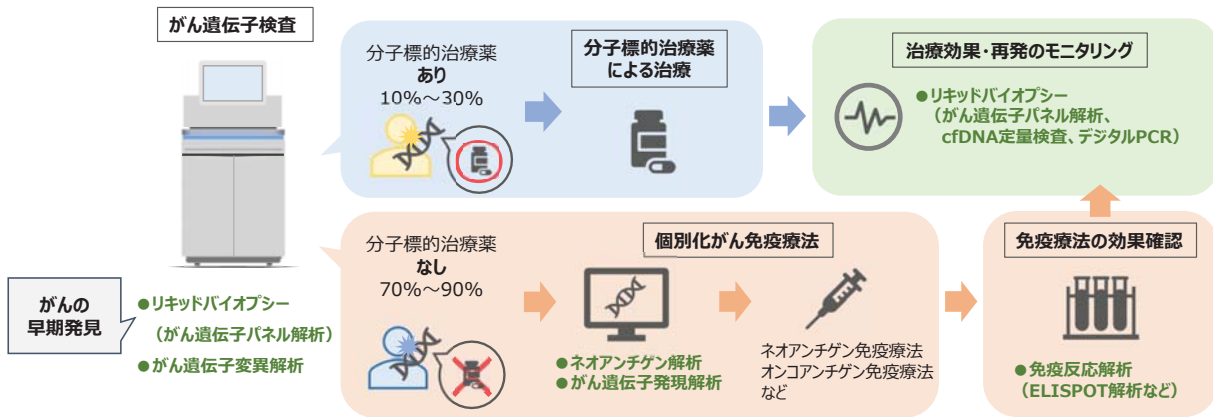
Cancer Precision Medicineは、遺伝子解析技術をもとに「がんプレジジョン医療」を推進しています

CPMは、患者さん一人ひとりのがん遺伝子情報を解析することにより、
 個々の患者さんに最適な医療を、最適なときに提供する「がんプレジジョン医療」に貢献します。



がんプレジジョン医療への貢献

CPMは、がんの早期発見から、治療法の選択および治療効果・再発のモニタリングまで、臨床検査を通じて一貫したサポートを行います。

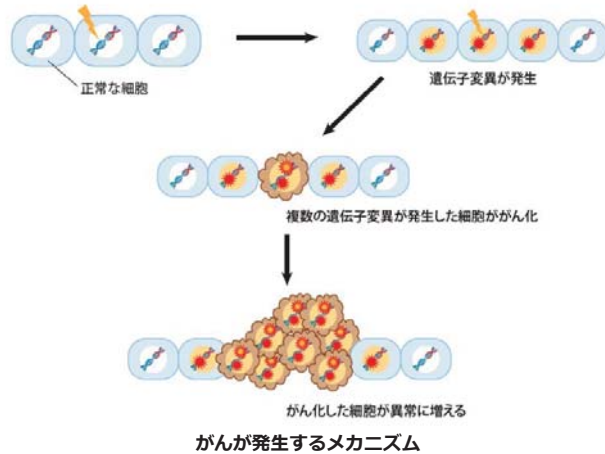


cp 緑字：CPMが提供する検査

がんと遺伝子

人間の体は、たくさんの細胞からできています。
細胞の中にある遺伝子（DNA）は体をつくる設計図となるもので、
人間の体はこの遺伝子の指令に基づいて維持されています。

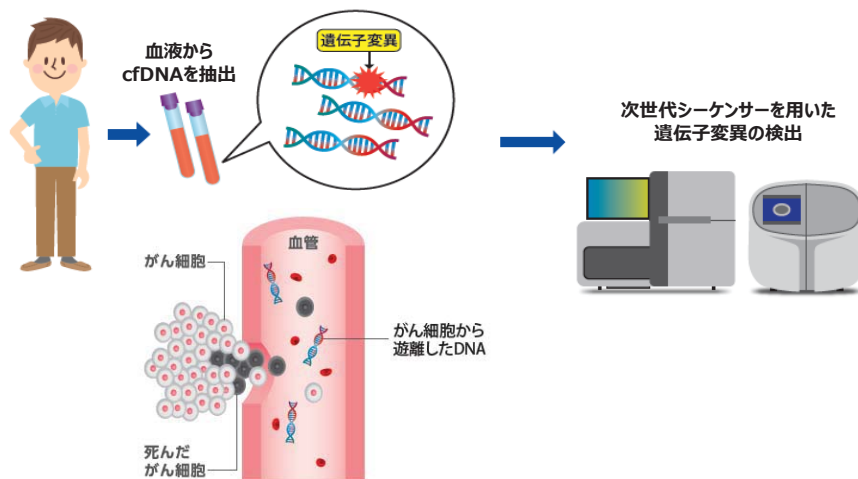
がんは、体の設計図である遺伝子に変化（変異）することによって起こります。
遺伝子の変異が積み重なることで細胞ががん細胞となり、
異常に増え続けることで体にさまざまな影響をおよぼします。



リキッドバイオプシー

リキッドバイオプシーは、血液などの体液を用いて診断や治療法の選択や治療効果の予測などを行う検査です。

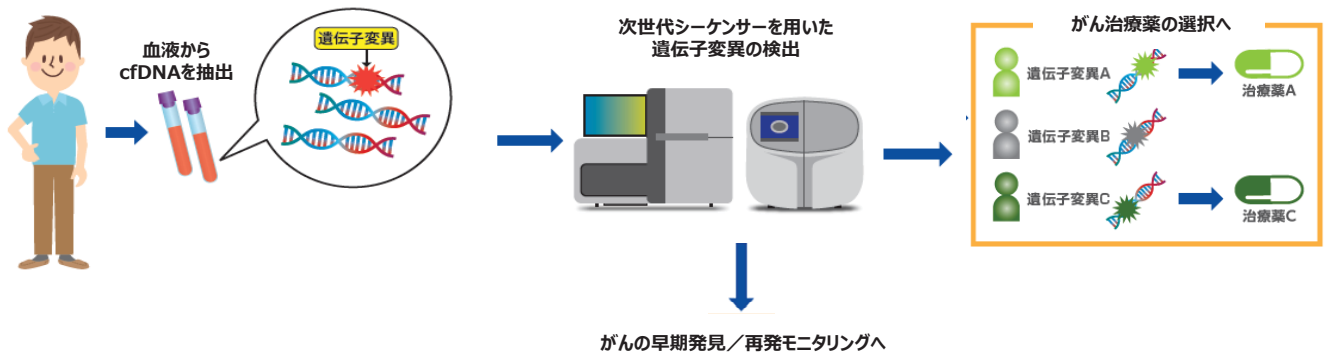
血液中には、がん細胞から遊離したごく微量のDNAが流れています。
次世代シーケンサーを用いることによって、この微量なDNAを検出し、解析することができるようになりました。



リキッドバイオプシーによるがん検査の特長

- がんゲノム医療の多くは手術や生検等で採取したがんの組織をもちいて検査を行います。リキッドバイオプシーは採血のみのため、**体への負担が小さく、くり返し行うことができます。**
- 採取したがん組織の情報だけでなく、**全身のがんの状態をリアルタイムに把握**することができます。
- がん組織が採取できない場合（骨転移や多発性転移、生検が難しい場合など）でも、**採血によってがんを検査**することが可能になります。
- がんの微量なDNAを検出するため感度が高く、**早期にがんを発見**できることが期待されています。

CPMのリキッドバイオプシーは、血液中に流れ出した微量ながん由来のDNA（cfDNA）を検出することで、さまざまながんの早期発見や再発のモニタリング、患者さん自身の遺伝子異常のタイプに合った治療薬を見つけることに役立ちます。

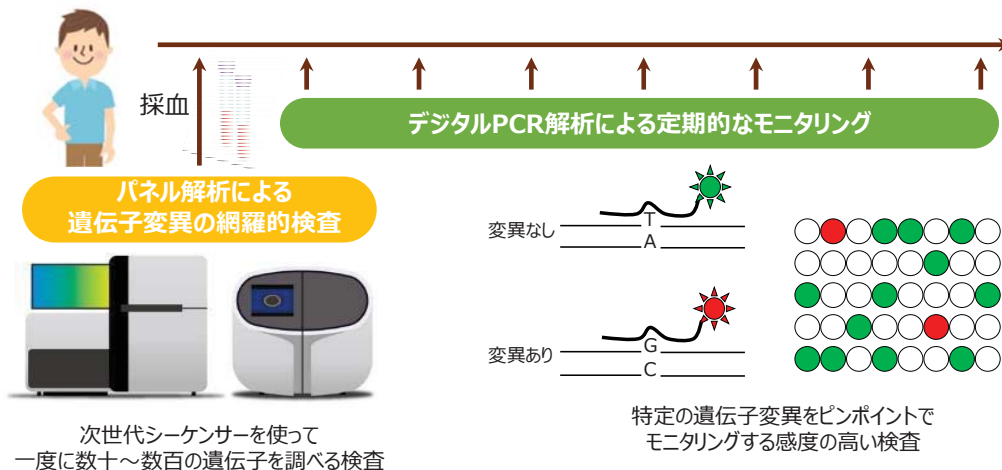


リキッドバイオプシー パネル解析 と デジタルPCR解析

CPMでは、**パネル解析**や**デジタルPCR解析**の技術を用いて、がんの早期発見や治療薬の選択のための研究および臨床検査に取り組んでいます。

パネル解析とは、がんに関連する数十から数百種類の遺伝子を対象として、遺伝子変異を次世代シーケンサーを使って一度に調べる検査です。

デジタルPCR解析は、がん遺伝子パネルによって検出された遺伝子変異について、ピンポイントでモニタリングを行う感度の高い検査です。



リキッドバイオプシーに関する共同研究の進展

当社HPプレスリリースより (<https://www.cancerprecision.co.jp/>)

2021年9月9日

プレスリリース

国立研究開発法人国立成育医療研究センターとの共同研究契約締結のお知らせ

←小児がんにおけるリキッドバイオプシーに関する共同研究

2018年8月9日

プレスリリース

セコム医療システム株式会社、医療法人社団あんしん会西巻メディカルキューブとの共同研究契約締結に関するお知らせ

←がんの早期診断を目的としたリキッドバイオプシーに関する共同研究

2018年3月1日

プレスリリース

公益財団法人がん研究会との共同研究契約締結に関するお知らせ

←固形がんの診断を目的としたリキッドバイオプシーに関する共同研究

2018年2月15日

プレスリリース

Thermo Fisher Scientificとの新規リキッドバイオプシープラットフォーム評価のための提携に関するお知らせ

←リキッドバイオプシーパネル評価のための試薬メーカーとの提携

2018年2月1日

プレスリリース

IMS グループとの共同研究契約締結に関するお知らせ

←大腸がん・胃がんにおけるリキッドバイオプシーに関する共同研究

大腸がん・胃がんにおけるリキッドバイオプシーに関する研究成果報告

www.oncotarget.com

Oncotarget, Advance Publications 2020

大腸がん・胃がん手術患者における循環腫瘍DNAの検出

Detection of circulating tumor DNA in patients of operative colorectal and gastric cancers

Takeyuki Suzuki¹, Tetsutaro Suzuki², Yukino Yoshimura³, Mitsunori Yahata¹, Poh Yin Yew¹, Tetsuya Nakamura⁴, Yusuke Nakamura⁵, Jae-Hyun Park¹ and Ryota Matsuo⁶

¹Cancer Precision Medicine, Inc., Kawasaki, Japan

²Yokohama Asahi Chuo General Hospital, Yokohama, Japan

³Itabashi Chuo Medical Center, Tokyo, Japan

⁴Itabashi Medical System, Tokyo, Japan

⁵Japanese Foundation for Cancer Research, Tokyo, Japan

⁶Shin-Matsudo Chuo General Hospital, Matsudo, Japan

Correspondence to: Ryota Matsuo, [email: r.matsuo.smt@ims.gr.jp](mailto:r.matsuo.smt@ims.gr.jp)

Jae-Hyun Park, [email: j-park@cancerprecision.co.jp](mailto:j-park@cancerprecision.co.jp)

Keywords: ctDNA; early detection; liquid biopsy; mutation; recurrence

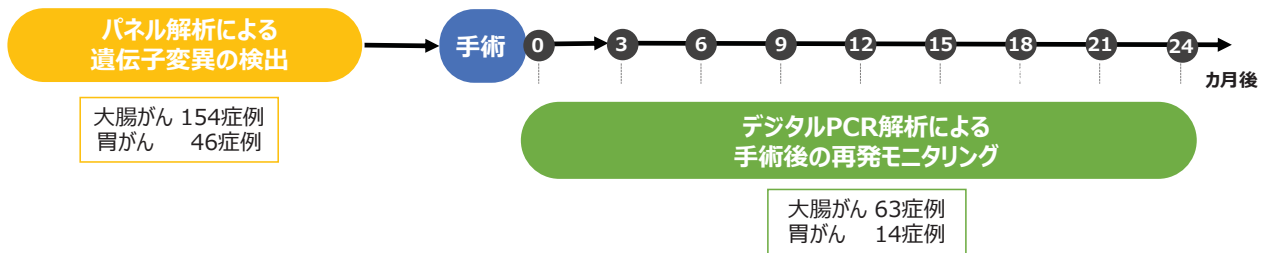
Received: May 22, 2020

Accepted: July 07, 2020

Published:

Copyright: Suzuki et al. This is an open-access article distributed under the terms of the Creative Commons Attribution License 3.0 (CC BY 3.0), which permits unrestricted use, distribution, and reproduction in any medium, provided the original author and source are credited.

大腸がん・胃がんにおけるリキッドバイオプシー 試験デザイン

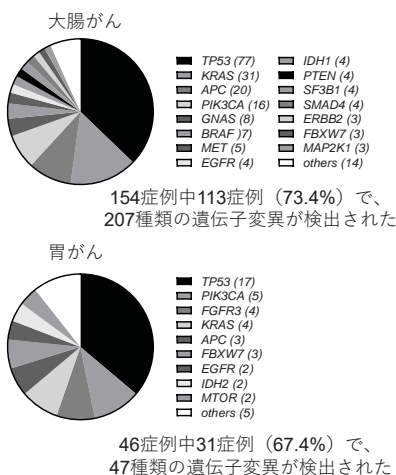


大腸がん・胃がん200症例を対象に、手術前にリキッドバイオプシーパネル解析を行い、遺伝子変異を解析した。そのうち、複数の症例で共通して検出された遺伝子変異を持つ77症例を対象に、デジタルPCR解析を行い、遺伝子変異の検出頻度を追跡することにより、手術後の再発モニタリングを行った。

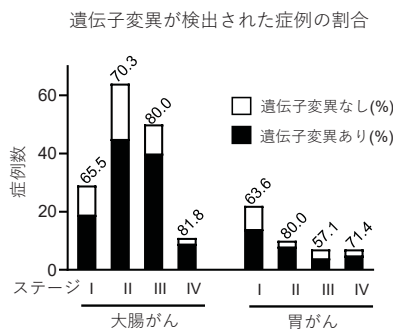
Suzuki, *et al*, Oncotarget 2020 ;11(34):3198-3207.

大腸がん・胃がんにおけるリキッドバイオプシー 遺伝子変異検出結果

パネル解析により検出された遺伝子変異



遺伝子変異の検出率



がんステージ別の検出率まとめ

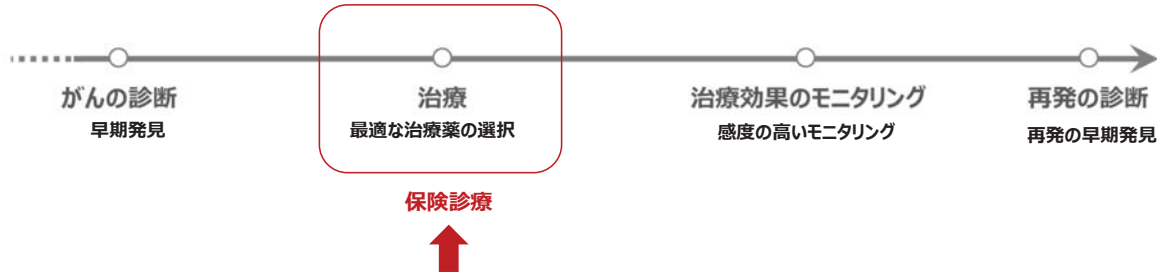
がん種	ステージ	検出率 (%)
大腸がん (154症例)	I	65.5
	II	70.3
	III	80.0
	IV	81.8
胃がん (46症例)	I	63.6
	II	80.0
	III	57.1
	IV	71.4

リキッドバイオプシーパネル解析によって、全200症例中144症例（72.0%）で遺伝子変異が検出された。ステージIのがんにおいても、60%以上の検出率が確認された。

Suzuki, *et al*, Oncotarget 2020 ;11(34):3198-3207.

リキッドバイオプシーの今後の課題

リキッドバイオプシーは、がんの診断から治療薬の選択、治療効果および再発モニタリングまでさまざまなタイミングで繰り返し利用することが期待されている検査です。



一方で、現状のリキッドバイオプシーパネル検査は、以下の方に対して1回だけ保険診療が認められています。

- ・原発不明がんや希少がんなどの標準治療がない固形がん患者の方
- ・局所進行あるいは転移が認められ標準治療が終了となった（見込み含む）固形がん患者の方

➡ CPMでは、リキッドバイオプシーの利点を活かし、「適切なタイミングで」「繰り返し」検査を行う医療を実現するため、新規がん遺伝子パネル検査の開発に着手しました。

2023年3月13日 IRニュース 新規がん遺伝子パネル検査の開発着手のお知らせ

リンク先：https://www.oncotherapy.co.jp/wp-content/uploads/2023/03/230313_01.pdf

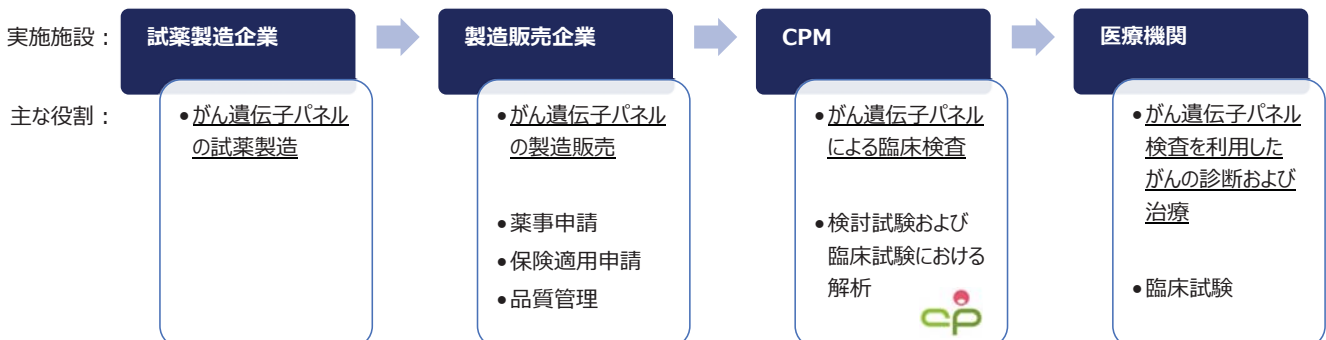
新規がん遺伝子パネル検査の開発着手

リキッドバイオプシーの利点を活かし、適切なタイミングで繰り返し利用できる新規がん遺伝子パネルの開発を目指します。

新規がん遺伝子パネル検査の概要：

- さまざまな固形がんに共通するがん遺伝子変異を対象としたパネル
- 既存の治療薬の標的となる遺伝子変異を包括的かつ安価に解析する
- クローン性造血（※）に関連する遺伝子変異も解析可能
※クローン性造血は、血液細胞が増えていく過程で、遺伝子変異を伴う現象です。
加齢や喫煙、がんの治療などの要因によって増加することが知られており、血液がんや心血管病など、さまざまな疾患の発症リスクに関連しています。
- 保険診療下でも実施可能なパネル検査を目指す

保険診療下での検査提供の流れ





本資料は、投資者に対する情報提供を目的として記載したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料発表日現在の将来に関する前提、見通し、計画に基づく予測が含まれております。これらは現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、今後の経済情勢、市場の変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績は予測と大きく異なる可能性があります。

当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。